

# Safety, Mobility & Amenity

安全性を確保し、  
移動性能を高め、  
そして快適空間を築く

横浜国立大学橋は国道1号線の上空を占用しており、アプローチ道路とともに地域に開放されている公共性の高い施設です。また、このエリアで一番見られ頻度の高い大学施設でもあることから、喫緊の課題である耐震改修に合わせ、新しい個性を与えることで橋梁と大学の存在感をアピールしたいところです。

ところが、私たちの大学生活を思い返しながら現在のキャンパス事情を調べていくと、このエリアには立体交差特有の課題（高低差の移動性能）や使い勝手の問題（歩道幅員・駐輪スペース）が残っていることがわかりました。通学者の交通手段は徒歩かスモールモビリティ（自転車とバイク）に限定されていますが、学内での事故もあり、交通マネーもいまひとつという状況です。モニュメンタルな橋づくり以外にも大事にすべきことがたくさんあるのです。

そもそも橋梁は構造そのものでデザインするべき対象です。上部工の主構造が健全で構造変更を必要としない以上、吊ったり擬装する必要はありません。また、有名な「正しい森」を背景にできる国大橋は、控えめな1968年当時の姿を維持し、成長を続ける森を風景の主役にするほうが、環境創造を標榜する我が横浜国立大学にふさわしいスタンスです。したがって、国大橋は地肌をリフレッシュし、付属物を改良する程度に留め、むしろ今ここで起きている諸問題に目を向け、エリア全体の安全性と利便性を高めることに力点を置くべきであると考えてに至りました。

国大橋の耐震改修に合わせて為すべきこと、それは、  
**S** 地震時の安全性だけではなく「日常の交通安全性」を確保し、  
**M** 新旧の施設を有機的につないで「人々のための移動円滑化」を図り、  
**A** 国大のエントランスとしての「景観と空間の質」を高めること、だと考えます。

実は、私たちの提案にもうひとつ重要なキーワードがあります。それは、「既存の資産を最大限活かし、常にコストパフォーマンスを意識しながら、重要なこと、実現可能なことから現実的に解決を図ろう」という考え方——Realityです。

# & Reality



国大橋の耐震改修に合わせて為すべきこと  
それは地震時の安全性だけではなく  
「日常の交通安全性」を確保し、  
新旧の施設を有機的につないで  
「ここで活動する人々のための移動円滑化」を図り、  
国大のエントランスとしての  
「景観と空間の質」を高めることだと考えます。

## S Safety design

地震時のみならず日常の安全を確保するための提案

- 耐震補強（落橋防止・沓座拡幅・橋脚補強）は違和感の生じない外形にするともに地肌をリフレッシュし、さらに水仕舞いの改善が必要です。
- 重大な事故を予防するため防護柵の交換（ブロックアウト構造化・国道への落下物防止）が必要です。
- アプローチ道路のはみだし走行の抑止と視距の確保が必要です。歩道をカーブの内側にシフトすることで線形改良と視距確保を図ることを提案します。
- 歩行者の安全のため歩道への駐輪抑止が必要です。

## M Mobility design

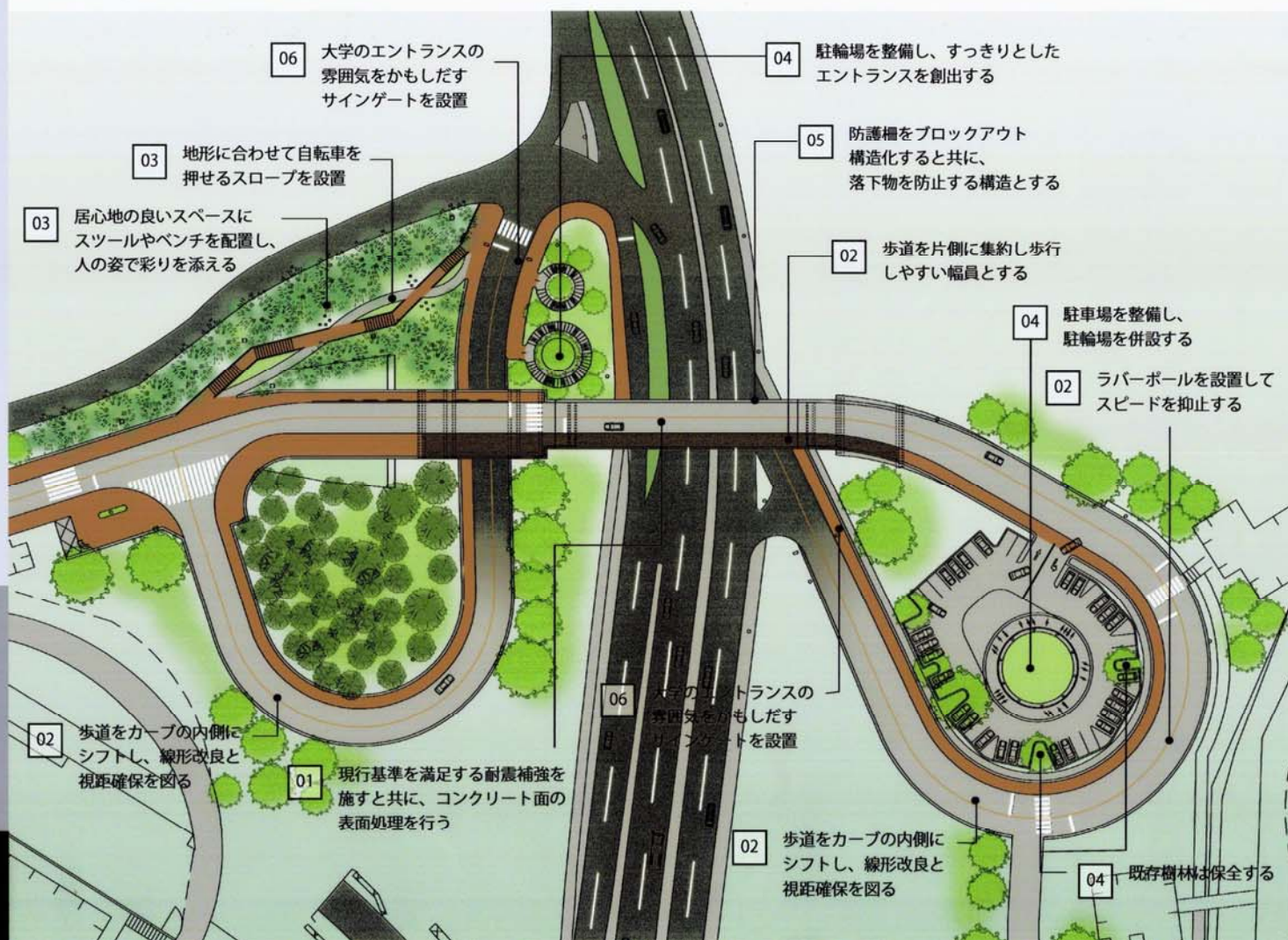
活動する人々のための移動円滑化を図り、バイクロジー（Bike+ecorogy）の促進環境を整えるための提案

- 歩行者：国大橋の歩道が狭く、緑石もあって歩きにくい状態です。歩道の拡幅が必要です。
- 自転車：路面走行の安全性向上、北側階段の使い勝手の改善、駐輪場不足の解消により自転車の利用促進を図ることを提案します。
- バイク・自動車：アプローチ道路のセンターラインにラバーポールを配置してスピードを抑止するとともに、駐車場の容量アップを図ります。

## A Amenity design

横浜国立大学のエントランスゾーンにふさわしい「景観と空間」を獲得するための提案

- 北側・南側入口には大学のエントランスの雰囲気を感じ出すためのサインを設置します。
- 北側階段部では居心地の良いスペースにスツールやベンチを配置して、人の姿で彩る方法を提案します。
- 北側入口付近には駐輪場を、南側広場には駐車場と駐輪場を設置しますが、ここにも居心地の良いスペースを設け、人の姿で大学らしさを演出します。

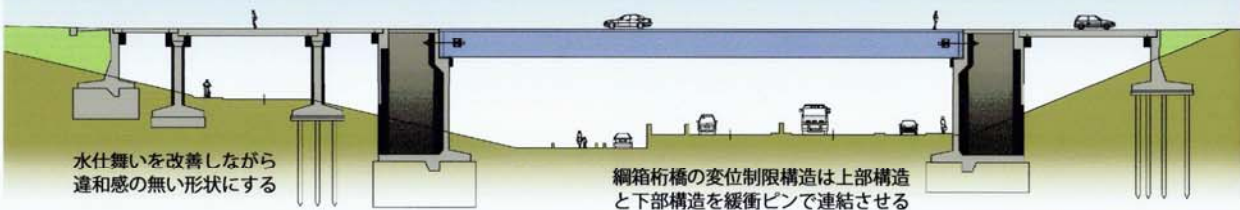


## 01 耐震補強

S A

橋脚は増厚してテクスチャを施す  
表面の汚れを落とし、ポリマーセメントモルタルを塗布する  
橋座に集まる水はパラベットの背面に設置する排水管に導く

網箱桁橋の落橋防止構造は桁かかり長を確保し、PCケーブルで上部構造と下部構造を連結させる（箱桁の内側のみ設置）



## 02 線形改良

S M



アプローチ道路ではみだし走行の抑止と視距の確保が必要である  
また橋は両歩道の幅員が狭く緑石もあって歩行しにくい

歩道をカーブの内側にシフトして線形と視距を改善する  
橋梁は防護柵の交換に合わせて床版の一部を打替える

## 03 階段部の改良

M A

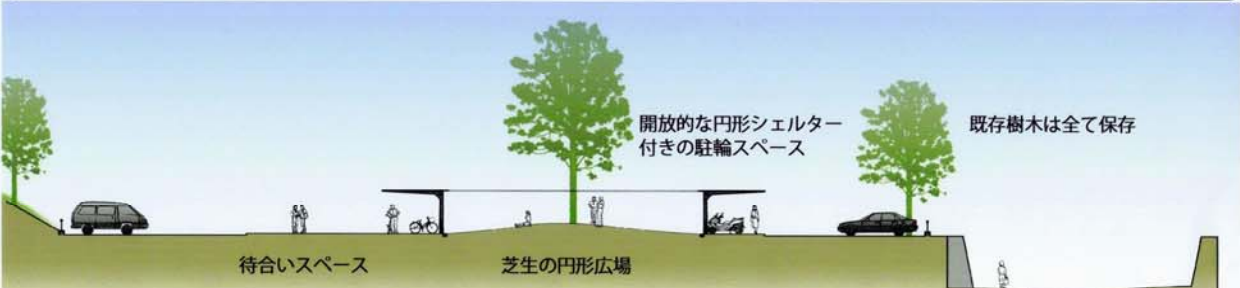


現在踏み分け道となっているわき道を斜路に整備する

居心地の良いスペースにスツールやベンチを配置して人の姿で彩る

## 04 駐車場・駐輪場の整備

M A

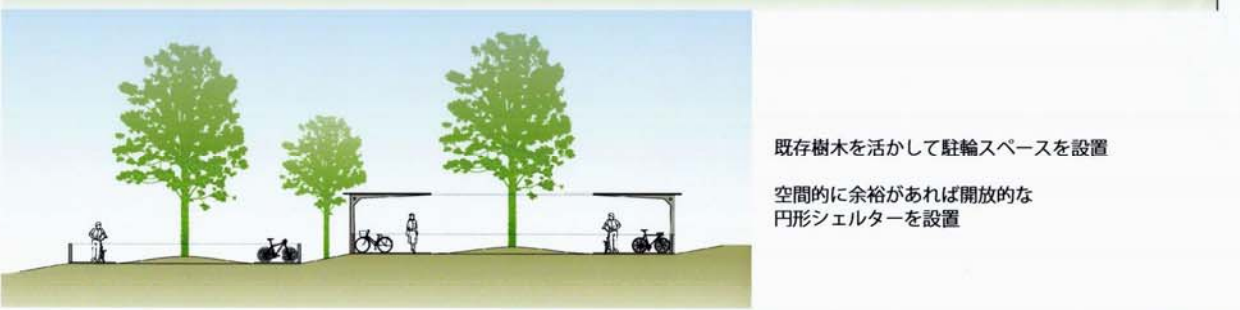


開放的な円形シェルター付きの駐輪スペース

既存樹木は全て保存

待合スペース

芝生の円形広場

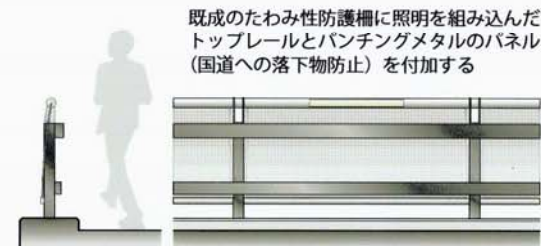


既存樹木を活かして駐輪スペースを設置

空間的に余裕があれば開放的な円形シェルターを設置

## 05 防護柵の交換

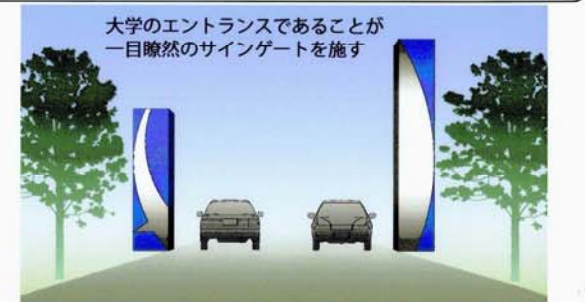
S A



既存のたわみ性防護柵に照明を組み込んだ  
トップレールとパンチングメタルのパネル  
（国道への落下物防止）を付加する

## 06 サインゲート

M A



大学のエントランスであることが一目瞭然のサインゲートを施す